

『筋電図データから肩甲骨機能を考える ―体幹との関係性もふまえて―』

「体幹が安定したら肩関節にはどのような影響があるか」

医療法人寿山会 喜馬病院 井尻 朋人

肩関節のリハビリテーションを行う際、体幹の安定性との関係を考えることは多いのではないだろうか。一般的に、「体幹が安定していないから上肢の機能が制限される」などといわれることがあるが、具体的にどのような状態を示すのか、明確に説明できるであろうか。体幹から肩関節に着く筋は数多く存在し、それらの筋は相互に影響し合う。逆に多すぎてややこしいともいえる。明確なビジョンが必要である。

今回の講義では、体幹の固定性が向上した時に肩甲骨周囲筋の変化について、研究データを提示する。また、そのデータから、実際の症例のリハビリテーションについて考える。このセミナーを受けていただくことで、体幹の不安定性を有する方のリハビリテーションを実施する際、どのような姿勢をとることが必要なのか、肩のアプローチの前に体幹へのアプローチがどのような場合に必要なのか、が論理的に理解できる。また、その変化について実技も交えながらその理解を深めていく。普段体幹の安定性低下が生じている症例に多く関わる方におすすめである。

「症例の動作と筋電図研究のデータから肩甲骨機能を解釈する」

医療法人和松会 六地藏総合病院 楠 貴光

臨床のリハビリテーション場面においては、脳血管障害片麻痺患者や運動器疾患患者の上肢機能を評価する際に、肩甲骨周囲の問題点が挙がってくることが多い。このとき、単に『肩甲骨が不安定だから』、『肩甲骨の運動が過剰に生じる』といった評価のみで、理学療法を実施してしまうこともあるのではないだろうか。肩甲骨機能に関する正常運動や正しい筋活動の知識を持って、肩甲骨機能のみならず体幹や遠位部の関節運動との関係性についても考えることで、的確な評価、治療を展開できると考える。また、多くの患者さまにおいては、一次的な機能障害のみならず、二次的な機能障害が生じ、その関係性についても評価し、考えていく必要がある。

今回、私からは症例の上肢機能に関する動作の動画を提示し、筋電図データやこれまでの研究の結果から動作を解釈していく時間にしたいと考える。単に肩甲骨が不安定や、肩甲骨の動きが過度である、少ないといった評価のみに留めるのではなく、筋電図データや研究の結果をみて考えられる評価や治療について、皆さまと多くの考え方を共有できれば幸いである。